

## 編集後記

モーツァルト歿後三百年にあたる今年、ザルツブルク音楽祭で「ドン・ジョヴァンニ」「フィガロの結婚」を観る幸運に恵まれた。特に、ムーティが振った「ドン・ジョヴァンニ」はレイミー、フルラネット、ゲルベローヴァといった当代一流の歌手を擁してすばらしい演奏であった。オーケストラはもちろんウィーン・フィル。一幕のまるで影絵のような美しい舞台。一幕のクライマックス、地獄落ちの場面では、ドン・ジョヴァンニが背景に描かれた宇宙の中へのみ込まれてゆくハンベの演出が斬新で印象的だった。

日中は陽が射していたのに、オペラがはねて祝祭劇場を出ると外は雨。夏のザルツブルクは雨が多いのだそうだ。いつか吉田秀和のエッセイで同じ場面を読んだのを思い出した。雨にけぶる幻想的なホーエンザルツブルク城を眺めながら劇場をあとにした。

アマデウス「神より与えられしもの」から至福の時を得たひと夏であった。

(M・T)

平成三年十月十五日 印刷  
平成三年十月二十日 発行

(非売品)

編者 愛知大学文学會

代表者 尾崎昭美

印刷所 豊橋市小池町  
東邦印刷工業所

発行所 豊橋市町畑町  
愛知大学文学會

振替 名古屋 三十四五六五四